

# On your side

<https://toyono-jinjikyo.com/>

## 4

### 令和 4 年度 (2022 年度) 人権教育の推進について (中堅教諭等資質向上研修)

10 月に実施した 10 年経験者研修第 4 回は、人権教育の推進をテーマとして、池田市立秦野小学校の田阪佑樹教頭先生にご講義いただきました。隣の学級の担任 (教職 2 年目) から差別事象についての報告を受けたという事例をもとに受講者同士で意見し合いながら分析・協議をすることで、ミドルリーダーとして何ができるか、どうすればよいか、自分ならどう動くかを具体的に考えました。返却されたご自身の振り返りシートの記述やこの研修通信で、講義の内容と校内での役割を振り返ってみてください。

#### ～ 振り返りシートより ～

具体的な事象の対応について、「自分ならどうするか」と考えたとき、答えは一つではないと思いますが、なかなかこれだなというものが出せませんでした。今後も感覚を高めていかなければと感じました。後輩を支える際、どうしても学級経営論で片づけてしまいがちですが、事象分析の解説の中にあつた「混ぜすぎない」という言葉のとおり、**人権教育を学級経営目線だけでなく、人権教育として実践する大切さが分かりました。**

現在の学年でも経験の少ない先生と一緒に生徒指導をする機会が多く、ゴールをどこにするのか、そのためには何が必要かなど具体的なイメージをもちながら話していかないと伝わらず、いろいろな想定をした対応策を考えていく必要があると日々痛感しています。**管理職の先生や生徒指導の先生、学年の他の先生とも相談しながらよりよい対応、解決ができるように取り組んでいきたいです。**

今回の演習の中で、発言の差別性、事象の分析、今日これだけは、背景・原因の分析など、**分けて一つひとつをしっかりと考えていくと全体像が見えて整理できました。**2 年目など経験の少ない先生への指導の仕方や、言葉かけや様々な対応が見えてきたように思いました。

**知識をもつことで自分の守れる範囲を増やすことができ、子どもに寄り添った対応や指導ができるので、これからも知識を増やしていきたいと思いました。**学年担任の先生に 2 年目の先生が 2 人いて、様々な話を聞くので、これからもいろいろ話を聞いていければと思いました。

自分の中だけで思っているのではなく、**経験の少ない先生にその思いを伝える際の伝え方や伝えなければいけないことに気づくことができました。**もちろん子どもたちとも一緒に私自身もしっかり学び、視野を広げられるような取り組みをつくっていきたく思います。私もこれまでの先輩の先生方の取り組みがあつて、考え方や子どもたちへの返し方などの引き出しを増やせていると思っています。今後は後輩の先生にとって私もそうなれるように力をつけていきます。

具体的な事象から教職員の知識の浅さ、集団づくりの大切さを改めて考えました。同時に現任校の課題についても考えることができました。**「集団づくりガイドブック」を熟読し、学年で共有し、実行していきたい**と思いました。

勤務校では、外国にルーツのある生徒が各学年に数名はいます。その子たちが**安心して過ごせる学校をつくっていくために**今回の講義で学んだことを学校に持ち帰って教職員に伝えていきたいと思っています。

研修の終盤は自身の学校の課題も思い浮かべながら考えました。今後の取り組みの一つとして、校内研修を開いて、事例のもとに対応等を出し合い**教員の引き出しを増やすことが大切だ**と感じました。

自分自身の言動も含めて、どれだけ周りとも共有が図れているか、一つの事象に対して検討すべき点や考慮すべき点をその都度出し合っているか見直すきっかけになりました。また、経験の少ない先生にそれらを返しているか、声かけができているか、**出てこない情報を吸い上げようとしているか**といった自分の姿勢も改めて考えさせられました。

研修当日に配付した大阪府教育センターが作成している「人権教育リーフレット」は、ここ数年で新たに作成されたものや内容が改訂されたものもあり、改めて多岐にわたる人権課題は時代や社会とともに変化し続けることと、常にアンテナを張り知見を広げる必要があると感じたと思います。講義の中でもありましたが、今後の人権教育の推進のヒント・きっかけとしてリーフレットを活用してください。※研修時に配付した人権教育や学級集団づくりに関する資料は、大阪府教育センターWebサイト「教職員の方々へ」の「教材・資料等」からダウンロードできます。( [https://www.osaka-c.ed.jp/matters/humanrights\\_top.html](https://www.osaka-c.ed.jp/matters/humanrights_top.html) )

## 学び続ける教職員であるために

10年経験者研修は年間を通して「ミドルリーダーとしての役割を理解し、果たすこと」をテーマに実施してきましたが、「隣の学級の担任（教職2年目）から差別事象についての報告を受けた」という設定は、より一層みなさんの所属校の実情をふまえて役割や立ち振る舞いを考える内容だったと思います。

同時期（10月）に初任者研修でも様々な人権課題を知ることやねらいとした人権教育の研修を実施しましたが、今はまだあまりピンとこない人権課題もあったかもしれません。差別事象のみならず、それらの人権課題と来年も再来年も、場合によっては向こう10年出会わずに「やり過ぎてしまう」こともあるかもしれません。しかし、実際は気づけずに見過ごしていた、見逃していたと言い換えられることもあるでしょう。

初任者の先生方を、過ごした年数や時間がみなさんと比べて少ないゆえ「経験が少ない」というのなら、10年という時間を過ごした分、みなさんが「経験してきたこと」にはどんなことがあるのでしょうか？実体験はもちろん、先輩から教わったことや、見たり聞いたりしたことも含め、そこから学び取って次につなげられた経験を周りに伝えていくことが、経験の少なさを補うことになるでしょう。10年研でこれまでのキャリアを振り返り、伝え方を考える中で、今後の学びの見通しをもつことができたら幸いです。



10年を経て、担うことも多く、それぞれの役割や立ち位置で日々お忙しく過ごされていると思います。「忙」という字は「心を亡くす」と書きますが、忙しさの中でも **みなさんがなくしたくない心** はどんなものですか？世話焼きだねと言われるくらいの親切・思いやりの心、子どもと一緒に楽しむ遊び心、目標をもつ向上心など、つい忙しさを言い訳にして閉じ込めてしまっていたものはありませんか？最後の法定研修である10年研では、同じ経験年数の先生方と授業や教科のこと、学級や子どものこと、学校のことや教師としての自分のことを交流する中で、「初心を思い出す機会になった」という声を多く聞くことができました。

それでも忙しさを理由とすることはあります。誰もいつでも余裕があるわけではありません。この研修通信のタイトル「On your side」は和訳すると「あなたの味方」という意味です。“I'm always on your side.”（私はいつでもあなたの味方です）というフレーズを、みなさんはこれからもかけてあげられる人であり、かけてもらえる人であってほしいです。支えあい励ましあい認めあいながら、みなさんがこれからも豊能地区で活躍されることを心から願っています！

「教職員研修」についての情報は、所属市町教育委員会（教育センター）からの連絡・案内以外にも、豊能地区教職員人事協議会 (<https://toyono-jinjikyo.com>) や、大阪府教育センター (<https://www.osaka-c.ed.jp>) のWebサイトからも確認することができます。今後も研修で「学び続ける」みなさんを支えていきます。

## お知らせ（研修に関する提出物について）

3市2町合同で実施する10年経験者研修（共通研修）は2月実施の第5回が最終回です。「研修実施報告書」（「研修の手引」P. 13～15掲載の【様式4】）と「選択研修報告書」（「研修の手引」P. 16掲載の【様式5】）を作成し、所属市町教育委員会（教育センター）が定める期日までに提出をしてください。